

2019（平成 31）年度 福岡女子大学 外国人留学生入試

〔 A 日程試験問題 〕

国際教養学科

小論文

【 60 分 】

注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 問題は 4 ページから 7 ページにあります。問題は全部で **2 問**です。
- 3 解答用紙には裏にも解答欄があります。
- 4 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等に気づいた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
- 5 試験開始と同時に解答用紙の**受験番号欄に受験番号**を記入してください。
- 6 試験終了後、**問題冊子は持ち帰ってください**。

問題 次の文を読んで、後の問に答えなさい。

人は、一つくらい世の中から無くなってほしいものがあると思うが、私の場合のそれは「会議」だ。

本来の意味で、人を集めて議論して何かよい結論めいたものを導き出すための場ならばいい。しかし、ただただ名刺を配り合い、へえそうですかとパワーポイントの資料を読み上げられ、異議なし。そんなセレモニーめいたむだな会議は、本当に消えてなくなってほしい。少なくとも、あまり呼ばれたくない。

せめて大勢を集めるならば、会議自体をもっと盛り上げればいいのに、といつも思う。

会議は本来、参加者からどんどん意見を言ってもらったほうがいいものだ。議題に対して、できればたくさん斬新なアイデアや、ひらめきが欲しい。

いわば「大喜利」のようなものだ。

参加者が「俺も俺も」と積極的に手を上げて、「いい意見を言いたい！」と燃え上がるような会議。ポケたがるような状況を、つくりたいのだから。

ならば、バラエティ番組などで芸人たちの会話を回すのが最も上手な人間の進め方を、会議のヒントにするのがよさそうだ。

最高の見本が、明石家さんまさんだろう。

彼は芸人だけでなく、素人の話を引き出すのも抜群にうまい。

昔やっていたテレビ番組『恋のから騒ぎ』などを観ても、若い女性がとりとめもない話をし始めても「ほう」「ほんまか」「それで？」としっかり相槌を打ち、まず話にのる。

そして、ピントのポケた話となって、尻^{しり}鞆^{たが}みに終わっても「オチ、ないんかい！」「なんやねん、それ！」とツッコむと同時に「ヒャーアハッハッ」と自ら大笑いする。

つまり、どんなつまらない発言でも正面から否定せず、笑いに変えてしまうわけだ。

だから、さほど面白くない話も面白く響き、女性たちは「さんまさんにツッコミをされたい！」「面白いと思われたい！」と、どんどん発言を繰り出す。できる限り奇抜なネタを、ひねり出そうとする。

これが「会社の企画会議」だとしたら、最高ではないだろうか。

誰しも「我先に」と手を上げて、参加者が常識からハズレるような斬新な企画、面白い意見を競い合うように言ってくれるのだ。

会議の参加者が意見を言い始めたら、多少危なっかしくても「ほうほう」「そうなの」とさん

まさんのようにのって見たらどうだろう。すると相手もどんだんのってくる。そうやってまずアイデアを出すハードルを下げてしまうのだ。分母が大きくなれば、よいアイデアにたどり着く可能性も高まる。結果的に大したアイデアではなくても「ちょっと面白いですね。そのアイデア、もう少し揉みましょうよ」とツッコめばいいのだ。

こうした愛情や気遣い、思いやりのようなものが、人の会話を引き出す。つまらない会議を盛り上げる。正しい意見より、楽しい意見が積み重なった先に、新しいものは生まれるものだ。そんな会議ならば、私も出たいし、ボケたい。

正しさを追い求めると、おかしいことになるのは会議だけではない。

振りかざした正義の鉄拳、正義の言葉がグロテスクに響くことがある。誰かの心を傷つけることがある。

二〇一六年、熊本を襲った大きな地震があった。

直後、現地入りしたテレビポーターが、自らのツイッターに「ようやく食事だ」といった書き込みと共に弁当の画像をアップすると、それに対する怒りの声が拡散した。

「お弁当を食べられない被災者の方も大勢いるのに不謹慎だ！」と言うのだ。

これは一体何なのだろうか、と思った。

震災にあって弁当が手に入らなくて苦労している人の目の前で、そのレポーターが自慢気に弁当を食べていた、というなら分かる。しかし、そのツイッターを見て怒っている人のほとんどが当事者ではないのだ。九州にさえいない人だ。それなのに「失礼だ！」と、我こそ正義の味方だ、という顔で怒っていたのだ。

お門違かどいとは、こういうときに使う言葉だ。

「お弁当を食べられない被災者の方もいる！」と言われれば、確かにそうだ。

しかし、それを根拠に「だからお前もガマンしろ！」と怒るのは、いきすぎである。

あるいは夕方のニュースなどでよくある「ゴミ捨て」マナーを注意するルポも、私にはとてもグロテスクに見える。

夜中にゴミ捨て場じゃない場所に勝手にゴミを捨てる人を、張り込んだレポーターが注意する。「あなた今、何を捨てました？ゴミを捨てるなど書いてあったの、読めなかったんですか？」と怒り口調で畳み掛ける。

「うるせえ！」とレポーターに逆ギレする人が多い。

正直、私もテレビに向かって吠えている。「うるせえ！」と。

不法投棄がよくないのは言うまでもないことである。ただ、夜中にゴミ捨て場じゃないとこ

ろに、ゴミを捨てる人たちにも事情があるかもしれない。むしろゴミ捨てのルールや仕組みに改善すべき点があるのかもしれない。こうした議論にまでたどり着くならば、マスコミはその役割を果たしていそう。しかし、彼らにまったくその気はなさそう。

私には、テレビ局、または視聴者が、ただ「正義の側に立ちたい」だけに見えてしまう。

そもそも「正義」とは何なのだろうか？

絶対的な悪がないように絶対的な正義などありえないではないか。

自分か信じるものを「正義だ」と考えれば、異なる文化や違う宗教を信じている人が「不正義」に映ることがままある。戦争などはたいてい「正義」が起点となる。文化や信じるものが違うだけなのに、「我こそが正義だ」と考えた途端、争いが生まれてしまう。

某生命保険のCMで「うちの旦那は危険な仕事していて心配なんです……」と、ショッカーの戦闘員の奥さんが出てきて嘆く、という演出があった。

仮面ライダーから見たら、ショッカーは絶対的な悪かもしれない。しかし、ショッカーの戦闘員たちにだって生活があるし、完全に悪い奴じゃないに違いない。もとはといえば、仮面ライダーだってショッカーに改造人間にされたのだ。そのおかげで戦えているのじゃないか。

論語には「直^{ちき}」という言葉が出てくる。素直や正直のことだ。

いかにもよい言葉だが、孔子はあえて「直であることはもちろんよいことだけど、それは人に迷惑をかけることにもなる」と説いている。

正直であることは結構だけれど、通り一遍で物事を捉えるのは「あなた、それは考えが足りないのだよ」というわけだ。

叱ったり、怒りたくなるような悪行を見かけても、すぐに声を荒げたりせず、少しだけでも立ち止まり、相手の立場に思いを馳せたらいい。

部下がミスをしたのは何か事情があったのかもしれない。家族に何かあったとか、体調がすぐれなかったとか、自分か見ている以外の“その人”というものが、必ずある。

自分が見ている世界が、すべてではないのだ。

そう考えると、ゴミ捨てのマナーなんてものを執拗に取材するマスコミ人にも、それなりの事情があるのかもしれない。少し言いすぎた。ごめんなさい。

(金田一秀穂『日本語のへそ』青春出版社、2017年より)

注 グロテスク……【grotesque】気味が悪い、の意。

ショッカー……日本の特撮ドラマ『仮面ライダー』シリーズ作品に登場する悪の組織。

正義のヒーローである仮面ライダーと敵対している。

孔子……古代中国の聖人。『論語』はその言行録。

問1 下線部「人は、一つくらい世の中から無くなってほしいものがあると思うが、私の場合のそれは「会議」だ」に関して、本文をそのまま引用はしないで、次の(1)・(2)それぞれについてわかりやすく述べなさい。

(1) 筆者は、どういう会議が悪いと考えているか。

(2) 筆者は、どういう会議が良いと考えているか。

問2 下線部「そもそも「正義」とは何なのだろうか?」に関して、次の2点について必ず言及しながら、あなたが考える「正義」について論述しなさい。

・「ゴミ捨て」マナーを注意するレポーターは「正義」をどういうものと考えているか。

・筆者は「正義」をどういうものと考えているか。

2019（平成31）年度外国人留学生入試A日程について、下記の誤りがありました。ここにお詫びを申し上げるとともに訂正いたします。

なお、該当箇所は試験の解答には影響しない誤植であることを申し添えます。

● 外国人留学生入試A日程（平成31年2月11日実施）国際教養学科 小論文 問題

問題文修正

6 ページの7行目及び23行目

（誤）自分か → （正）自分が

7 ページ 問2

（誤）・「ゴミ捨て」マナーを注意するレポーターは「正義」をどういうものと考えているか。

→（正）・「ゴミ捨て」マナーを注意するレポーターは「正義」をどういうものと考えているか。

<お問い合わせ先>

福岡女子大学

アドミッションセンター